

青森ヘルスプロモーションの市内波及（1） ～“健康をつくるまちづくり”の 市内波及の実際とその課題～

浦田 浩美¹⁾

1) 青森市健康づくり推進課

Key Words：①地域介入 ②保健師活動体制の変革 ③
地区把握・地区診断 ④地域開発

I. はじめに

平成11年度からスタートした青森ヘルスプロモーションは、「ヘルスプロモーションのモデルの形成」「ヘルスプロモーションの理解の促進」「地域活動の実践」が第2次青森市健康づくり基本計画に反映し「保健師活動体制の変革」等、行政においても多くの成果をもたらし、平成14年度からはヘルスプロモーション初期の段階から第2期へとシフトし、青森市内全体へヘルスプロモーションを進めている¹⁾。青森市ではヘルスプロモーションへの取り組みの開始時点から、モデルをモデルとして終わらせるのではなく、市内各地域へコミュニティ単位で市民主体のヘルスプロモーション活動の波及を図ることを長期的課題としていた。現在青森市では、ヘルスプロモーションの波及地域は6地域となり、各地域において特性ある市民主体の“健康をつくるまちづくり”の実践が進められている。モデル事業がモデルのみで終わる事例が多い中で、青森市ではどのようなプロセスを経てヘルスプロモーションの市内波及を可能としてきたのか報告する。

II. 目的

青森市ではどのようにしてヘルスプロモーションの市内波及を可能としてきたのか、青森ヘルスプロモーション第1期・第2期のプロセスから明らかにし、ヘルスプロモーションの市内波及における課題を検討する。

III. 研究方法

青森ヘルスプロモーションの進行を市内波及準備期、市内波及期にわけ、それぞれの時期にヘルスプロモーションの波及を図るためにどのような取り組みをすすめてきたのか、事業実施報告集並びに保健師地域保健活動記録から明らかにする。

IV. 結果

1. 市内波及準備期（青森ヘルスプロモーション第1期：平成11年度～13年度）

事業名：市民とつくるこれからの高齢社会の健康づくり支援事業

(1) 市の健康づくりの拠点施設周辺地域における活動を進めるため、モデル地域を見本に佃地域への地区診断と組織診断を実施。

(2) 県モデル事業のモデル地域として油川地域へ介入

平成12年度から3ヵ年計画でスタートした県の壮年男性健康アップ推進事業のモデル地域として油川地域を選定。壮年男性の健康という切り口から、壮年男性を取り巻く家族と地域の健康をつくるという視点をもって地域介入を進めた。

(3) 既存の呼び出し方式の健診事後指導から、参加者主体の健康づくり教室の開発と主役を担う健康づくりグループ育成を図る試みとして石江地域へ介入。

(4) 市民の健康なまちづくりに対する潜在ニーズを把握

実際に健康なまちづくりに主体的に参加したい市民の存在（地域）や、実践への1歩を進めていくための必要条件等を広報機能を活用した「市民アンサー」により把握。結果を広報で公開するとともに、実際活動への介入を図るため、実践希望のある市民と全保健師と「健康なまちづくりセミナー」においてワークショップを実施。

(5) これからの青森市の保健師活動のあり方を考えリニュアルを図る、保健師プロジェクトによる自主政策研究を人事課へ提案、実施。

2. 市内波及期（青森ヘルスプロモーション第Ⅱ期：平成14年度～18年度）

事業名：健康をつくるまちづくり支援事業

(1) 波及準備期に介入をすすめた地域の母体組織の組織化及び活動への支援

①佃地域：“佃元気応援隊”の組織化。佃地域の健康をつくるまちづくり活動を支援

②油川地域：地域商店会独自の健康づくり事業を支援。町全体の健康づくりイベント復活を支援。小中学校の学校教育と協働した思春期教育の推進。

③石江地域：“石江青い鳥ネットワーク”の組織化。石江青い鳥ネットワーク主催の石江地域の健康づくり教室の企画・開催を支援

(2) 保健師活動体制の変革

保健師活動体制を事業担当制から、主に小学校区を単位とする地域活動重視の活動へ変革。地区把握・地区診断とそれらを現すコミュニティレポートの作成を位置づけ。

- (3) 保健大学地域統合実習受け入れを効果的に活用した地区把握と地域開発
- ①浜田地域：地区診断後、浜田わくわく倶楽部を組織化。活動始動を支援
- (4) 地区診断・地域開発の推進
- ①戸山地域：地区診断後、活動母体の組織化。戸山地域の活動始動を支援
- ②三内地域：地区診断後、活動母体の組織化、三内地域の活動始動を支援
- (5) 健康をつくるまちづくり実践セミナーによる市内全域への啓発
- 実践市民から市民へ、市民と市民・地域と地域の経験が交流できる仕組みを形成。

V. 考察

ヘルスプロモーションは、保健師が地域介入の目的を明確に持つことにより、多様な切り口から波及を図ることができる。また、地域を質的・量的に把握する地区診断とコミュニティレポートの作成を活動準備のための重要な活動と位置づけた事により、活動母体の組織化と活動の初動を促進し、ヘルスプロモーションの市内波及を可能とした。青森ヘルスプロモーションの市内波及の鍵は、地域を基盤に据えた保健師の活動体制の強化と、保健師の地区診断に基づく地域開発の力を高めていくことにある。

VI. 参考文献

- 1) 三上公子：青森ヘルスプロモーションの挑戦、公衆衛生 Vol166, No8, 2002年 8 月, 556-55

口述 8

青森ヘルスプロモーションの市内波及（2） ～“健康をつくるまちづくり”の波及を図る 新たなコミュニティへの保健師の介入～

○小形 麻理¹⁾ 鈴木久美子¹⁾ 田中 牧子¹⁾

1) 青森市健康づくり推進課

Key Words：①やっつけそう感 ②地区把握・地区診断 ③地域特性の実感

I. はじめに

青森市には、ヘルスプロモーションの実践において、「青森ヘルスプロモーション第1期」の経験と、実践しなければわからなかった実践理論が数多く蓄積されている。ヘルスプロモーションの市内波及を進める上で、こ

れら実践マニュアルともいえる活動の軌跡は心強いものではあるが、自身が実践を進めていかない限りは、ヘルスプロモーションの市内波及を図ることはできないという現実はこの保健師も自覚している。

青森市では、「青森ヘルスプロモーションの市内波及（1）」の報告にあるとおり、青森ヘルスプロモーションの第Ⅱ期において、「地区把握・地区診断→コミュニティレポートの作成・報告」を活動準備段階の重要な活動と位置づけることで、ヘルスプロモーションの活動始動と活動波及を可能としている。新たな地域においてヘルスプロモーション活動始動をおこすに至った保健師の地域介入のプロセスを明らかにすることによって、今後のヘルスプロモーション波及の促進に役立てたい。

II. 目的

保健師は担当地域において、どのようなプロセスを踏んで新たな地域でのヘルスプロモーション活動を始動させたか明らかにする。

III. 研究方法

青森ヘルスプロモーション第Ⅱ期において、ほぼ同時期に新たな地域への介入をスタートした3地域の保健師の地域活動記録と平成15年度活動反省ミーティングの内容から、市民主体のヘルスプロモーション活動始動に至るプロセスを明らかにする。

IV. 結果

- (1) ステップ1：保健師活動の経験に基づく介入地域の決定
- これまでの保健事業を通じて知り得た地域の人材や地域の様相から、“この地域ならやっつけそう”という地域を介入地域として焦点をあてた。
- (2) ステップ2：地域へのインフォメーション～自分の言葉で唱導する
- ヘルスプロモーション活動の準備段階にあたる地区診断を進める上で、地域内の町会長に対し、地域情報把握のために地域へ入ることへの了解と、何のためにこの地域で健康をつくるまちづくりを進めるかを自分の言葉で伝え歩いた。
- (3) ステップ3：地域特性を捉える地区把握・地区診断

地区診断に関する事前学習や、保健大学地域統合実習受け入れを効果的に活用した地区把握のプロセスを活かし、地域の質的情報把握のためのインタビューを地域保健活動グループメンバーで実施。インタビュー結果については、メンバー間で分析を進め、地域の量的データの収集・整理は同時進行で担